

専徳寺報

第408号

平成26年1月10日発行
浄土真宗本願寺派
専徳寺

専徳寺納骨堂・永代供養墓受付中（パンフレットが本堂にあります）

〒740-0044 岩国市通津2764
☎0827-38-1124 FAX38-1000

<http://sentokuji-iwakuni.net/>

専徳寺

検索

御正忌報恩講法要

御案内

ご開山・親鸞聖人のご遺徳を偲ぶ、大切な行事です。万障くりあわせてお聴聞くださいますようお願い申し上げます。

日時

1月20日(月)	昼1時半～3時半
21日(火)	昼1時半～3時半 夜7時半～9時
22日(水)	昼1時半～3時半 ※朝座なし

講師

20日………住職・前任職
21日・22日……本願寺布教使・輔教
岡村 謙英 師（下関市）

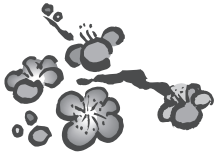
お斎料は500円、地区割りは

20日：灘 地区（11時半～13時）
21日：通津地区（11時半～13時）
※22日のお斎はありません。

園児参拝：21日朝

御伝鈔拝読：21日昼座と夜座

親鸞聖人のご生涯を曾孫の覚如上人が書きつづられた『御伝鈔』を拝読します。



大遠夜と万灯会 24日夜座

聖人のご臨終を偲ぶ厳肅な法座です。日中お仕事がある方もどうぞお参りください。



●仏具回収：ご家庭でご不用となった仏具（お念珠、仏壇の荘嚴具等）を回収いたします。

●膝掛けをお持ちになると冷えなくて良いと思います。聖典、聴聞カードもお忘れ無く。

●法話中の帳場受付はお休みです。宜しくご協力下さい。

如来・人・言葉 96

「報恩のこころ」

星野親行（豊中市・西法寺住職）

ご開山・親鸞聖人のご命日のお勤め（報恩講）は、聖人の33回忌にあたる1294年から今日に至るまで毎年途切れることなく続いている行事です。親鸞聖人のお徳とご苦勞を偲びながら、改めて法義に潤っているわが日暮らしを思い、心あらたにします。（報恩講）はある意味、お家のご法事よりも心をかけて勤めさせていただくべき大切なご法要なのです。

「報恩」とは読んで字のごとく、恩に報いるという事です。

大阪の高槻たかつきというところに行信ぎょうしん教きょう校こうというお坊ぼうさんの学校がっこうがあります。先々代せんぜんだいの校長かちょうが利井明弘かみあきひろという先生せんせいでした。平成15年へいせい15ねんにご往生ごうじやうされました。先生せんせいにはご往生ごうじやうになられる少し前からくり返しおっしゃる言葉ことばがありました。

「この頃ころね、言うねん。『ご恩ごんやなあ、有り難ありがたいなあ』。そう言うたらね、同行どうぎょうが指折さしおつて数えよんねん。ほんでね、『そうでんなあ。そう言いわれたら、この家うちも先祖せんぞから受けついでもんやし、土地ちかてそうでんなあ。田んぼや畑はたけもそうやし。まあ借金かきのないくらいが財産ざいぜんやと思うたら、ご恩ごんになつてますなあ』。いうて言うからね、『あのなで。お前まへさん、指折さしおつたり数えたり、目めに見えるもんにかご恩ごん感じかんじられへんのか。目めに見えん、数えられんご恩ごんにはなつてないのか』って言うねんけどね…。皆さん。今この本堂ほんどうに座まれていることのご恩ごんを感じることがありますか？ なんまんだぶ、なんまんだぶいうてお念仏ねんぶつ出来きてることにご恩ごんを感じることがありますか？ それを感じら

れたらほんまもんや。報恩ほうおん講こういうのはそれでつせ…」。

つまり報恩ほうおんとは、単ただに「親鸞しんらん聖人せいじん、ありがとうございます」だけではなしに、「聖人せいじんからいただいた法義ほふぎをそのまま慶よろこばせていただく」ということです。

親鸞しんらん聖人せいじんは、90年のご生涯しやうがいをかけて様々なご苦勞くるらうの縁ゆかりにおあいになりながら、阿弥陀あみださまのご本願ほんがんのお心こころというものを味わい、私たちに「本願力ほんがんりき」とお教えくださいました。

阿弥陀あみださまという仏ぶつさまは、願ねがいを建て、力ちからとなつて私わたしに届とどくおはたらきとなつてくださったのです。ですから私達わたしたちの、この口くちから出る「なもあみだぶつ」には阿弥陀あみださまのお心こころがこもつてくださっているといたできます。お念仏ねんぶつは、「お前まへさん、必ず私の浄土じやうどに生まれ帰かへつてくること出来きると欲ほうてな。それまでの日暮ひぐりらしはお念仏ねんぶつ申まをしながら大切に生きていつてくれよ」と、私わたしを願ねがい続け、支たすえ続けてくださっている仏心ぶつしんの声を聞き

くのです。

利井先生かみせんせいと同じ行信ぎょうしん教きょう校こうの先生せんせいでした山本やまもと仏骨和上ぶつこつわじやうは、

「阿弥陀あみださまのご本願ほんがん、おはたらきが私わたしに届とどいて、口くちにあらわれては念仏ねんぶつとなり、手てにあらわれては合掌がうじやうとなり、相あにあらわれては礼拜らいはいとなり、心こころにあつては慶よろこびとなり、また慚愧ざんきとなる。」とよくお育てくださいました。

本願力ほんがんりきはいつでもどこでも私わたしにかかり続けてくださっています。だからこそ私わたしたちは時々ときどきではありますが「なんまんだぶ、なんまんだぶ…」とお念仏ねんぶつがでます。お念仏ねんぶつさまが聞こえてくださるご縁ゆかりに遇あえるのです。そしてその尊たうとさ、不思議ふしぎさ、有り難ありがたさを味わわせていただくのです。

さらに、阿弥陀あみださまが私わたしを支たすえ育ててくださったっている本願力ほんがんりきは、往生じやうじやうという心こころを私わたしの上にひらいてくださいます。往生じやうじやうとは阿弥陀あみださまの智慧ちゐと慈悲じゐの世界せかい、お浄土じやうどへ往まつて阿弥陀あみださまと同じお覚さとりの身みと生まれさせていただく事ことです。こ

の世に生まれるのが誕生なら、娑婆しやばの縁がつきまわることには往生なのです。

そして、先立たれた方もご往生くださった方と仰がせていただきます。先立たれた方は阿弥陀さまと一緒に私を支え、願ひ続けてくださっているのです。そして、そのおはたらきが私の力となり、再び私に「なんまんだぶ、なんまんだぶ」とお念仏を相続させてくださいます。

逆に言えば私が今、「なんまんだぶ、なんまんだぶ」とお念仏相続させていただいているということは、先立たれた方が間違いないしにご往生されている証あかしでもあるのです。そして、今度は私の「いのち」を間違ひなく往生させんと導いている……そのように先立たれた方と、私の「いのち」の行く先を味わわせていただきます。

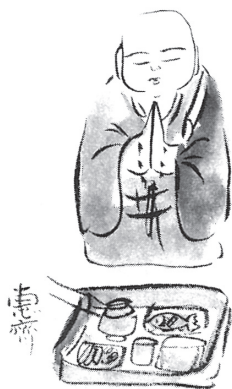
冒頭で「お家うちのご法事よりも…」とお聞かせをいただいた意味がここにありま

す。先立たれた方を偲ぶ大切なご法事の中

に「親鸞聖人の法義おみのりがあったからこそ、いや、聖人さまが阿弥陀さまのご本願のお心を間違ひなしにお伝えくださったからこそ、先立たれた方の「いのち」の意味と今のおはたらきを、「往生」という仏語でお聞かせにあずかれました。そしてそのおはたらきが、今度は私を包み、私の「いのち」を「往生するもの」として意味づけてくださいます」と味わわせていただきます。

このようにお家のご法事も大切な親鸞聖人への報恩のお仏事なのです。色々なご縁を通して、聖人のお伝えくださったものをそのままいただき慶ばさせていただきます。報恩のこのころの一端であります。

合掌



※法統継承

(6月6日)

くお念仏の法統、次代へく

本年、昭和52年から浄土真宗本願寺派門主をつとめられた即如すけがらご門主から、専如せんに新門さまが法統をご継承されます。専如さまは第25代ご門主に就任されます。法統継承式は6月6日10時、西本願寺で行われます。

新門さまとは大学院・宗学院時代を共に勉強させていただきました(ちなみに得度も一緒でした)。謙虚かつ賢明なお方でした。また七年前の結婚披露宴にもご多忙の中、ご出席の栄を賜りました。

この度の法統継承謹んでお慶び申しあげ、尊いご法縁とさせていただきます。(任職)

「南無阿弥陀仏とお念仏申す生活と、そうでない生活では大きな違いがあります。ご一緒に浄土真宗の念仏者としての生活を送らせていただきますよう。」

(新春のご法話より)



本堂に進まれる専如新門さま

寺内だより

み仏にいだかれて〔葬儀勤修〕

11月18日御往生

平田 田巻 美也子様 (58)
喪主 田巻 源七様

11月29日御往生

海土路 見常 恵美子様 (88)
喪主 佐藤 幸子様

12月12日御往生

通津 米本 清様 (85)
喪主 米本 寿明様

12月12日御往生

藤生 白木 時子様 (88)
喪主 白木 規晴様

12月17日御往生

青木 品川 ミエ子様 (89)
喪主 品川 淳三様

12月26日御往生

保津 竹島 馨様 (81)
喪主 竹島 進様

ご恩を偲びつつ

〔法事勤修〕(10月21日～1月1日)

〔長野〕小島豊様50、〔通津〕兼国常子様1、中崎サチエ様3、米重佳哉様13、米田実様17、木戸久夫様1、田中稔様50、稲本松美様25、増本正男様7、兼中勲様1、岸本圭二様50、榎本雄作様13、沖原健二様1、神田宏様25、村中慶吉様1、中崎哲夫様1、宮本節子様33、深井晃様3、村中芳子様7、故藤重昌展様33、岡崎則生様7、〔保津〕穴水徳幸様3、水上三千代様25、賀屋光貴様7、穴水輝見様3、赤崎設様1、〔青木〕小林芳子様33、木村勲様3、岩中みどり様17、藤本由数様3、〔黒磯〕



藤本裕史様1、森重好子様100・100、季廣禎真様1、〔藤生〕小笠原博様1、藤本静子様3、〔南岩国〕大崎三雄様33、野原秩次様7、〔大藤〕蔵田サチ子様25、150、〔市内〕中西聡様1、村岡房江様3、三井道雄様7、〔広島〕山本泰弘様1、升元薫様7、〔東京〕蔵重衆治様3

ありがとうございます

永代経志納

尊い永代経志を賜りました。謹んでお供え申あげます。

夫33回忌のご縁に

金 弐拾萬円也 小林 芳子様

永代経法要のご縁に

金 壹拾萬円也 赤崎 忠利様

永代経法要のご縁に

金 五萬円也 野原 靖史様

おめでとうございます

法物下付式(入仏式)

◆12月22日 三幅 五十代(藤)

平田 田巻 源七様

お給仕の慶び一人に存じます。

ご報告いたします

法要余香(永代経法要) 11月14・15日

〔講師〕松月博宣師。〔参詣者〕14日・昼座105名・夜座31名、15日・昼座92名。〔お鉢米〕津村昌弘、吉柴茂、半田正昭、藤本増男、棚田武人、広田尚敏。〔お供え〕藤井則枝、河村アサ子、古江益嵩、野原千鶴子。〔法要供養はがき〕76枚
法要総代様、仏婦理事様もありがとうございます。

山口別院報恩講 (11月26日)

〔参加者〕稲本順子、大田貞子、末広美代子、福本秀子、水上三千代、村上知津江

専徳寺倶楽部冬の集い (12月18日)

寒風の中、煤払や砂利整備の清掃、そして鉄門のサビの処理を。本当にありがとうございました。

〔参加者〕浅井佐、小方基史、沖原政裕、賀屋国昭、高林宏明、多山博通、半田正昭、増本真一、増本英一郎、村中紀一郎

ご存じですか

日常的な真宗用語

「ふさわしくない言葉↓ふさわしい言葉」

①御霊前(みたま)↓御仏前・御尊前

②祈る↓念じる

③冥福を祈る↓哀悼の意を表する・慎んでお悔やみ申しあげます

④戒名↓法名ほうみょう

⑤告別式↓葬儀

⑥安らかに眠りください。おやすみください。↓お浄土から私たちをお導きください。

⑦天国に行く(昇天する)↓浄土に往生する

⑧草葉のかけ↓お浄土・み仏の国

⑨追善供養↓追悼法要

⑩(仏壇やお墓の移動の際の)お魂ぬき↓遷座法せんざ

(要・参り)

⑪地鎮祭↓起工式

何気ないことかもしれませんが、こうした言葉遣いが他力のおみのりを心に育みます。気をつけたいものです。

ついたち礼拝「月のはじまりはお寺から」 2月1日(土)、3月1日(土) 午前9時より45分間

